

出題分析			
試験時間	120 分	配点	150 点
		大問数	1 題
分量 (昨年比較) [減少	同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>例年通り、A4 サイズで約 5 ページの長文が題材となっている。国際政治や歴史に関する知識があると読み進めやすい文章である。設問に関しては昨年度と同様、和文英訳は出題されず自由英作文が課された。その他の設問も空所補充、下線部和訳、内容説明と従来通りで難度はそれほど高くないが、100 字以上 120 字以内の内容説明は、要点を正確につかむ力と的確な表現力が必要である。自由英作文はテーマが抽象的であり、昨年度よりも解答を作成するのに苦労したのではないかと思われる。全体としての難易度は昨年度と同程度と言ってよいだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	A. 長文読解問題 「戦争はなぜ起こるか」	1 の下線部和訳は、a messy cocktail of ideas の訳出に少々工夫が必要である。2 および 3 の空所補充は、前後で述べられている内容を丁寧に読めば解答に迷うことはないだろう。4 の内容説明 (60 字以内) は、下線部の前後にある内容を簡潔にまとめればよい。5 の空所補充は、直前に前置詞 on があることから agenda が適切であると判断できる。6 の下線部和訳は、語彙・文構造ともに特に難しいところはない。7 の内容説明 (100 字以上 120 字以内) は、本文の議論を踏まえて筆者の主張の理由を説明するものであるが、解答に含めたい内容が本文中に散在しており、制限字数内に過不足なく収めるのに手間取るかもしれない。	標準
	B. 自由英作文問題	「現代世界の平和にとって最大の脅威は何か。この脅威に対して、人類はどうすればより平和な世界をつくり出すことができるか」という設問に答える。抽象的な問いであり、制限時間内に clarity of content (内容の明確さ) という条件を満たす解答を作成するのは容易ではないだろう。	やや難

#### 合格のための学習法

慶應義塾大学文学部の英語の特徴は、英文の長さ、記述問題の多さと難易度の高さにある。日頃から多彩なジャンルの英文を読み、思考力を鍛えることを心がけたい。記述問題への対応力をつけるためには、[自力で解答を作成する] → [指導者に添削してもらい] → [修正点を踏まえてもう一度解答を作成する] という学習プロセスを繰り返すことが効果的である。昨年度に引き続き、今年度も自由英作文が出題された。大学入試に限らず、英語で表現する力を重視する傾向は年々強まっており、来年度以降も自由英作文が課される可能性は高い。日本語と英語両方の記述力を養成することが肝要であろう。